

会員講演1

# Domino x 生成AIで進める業務改革 ～AI時代の情報活用戦略～

---

SMK株式会社システム開発部  
清水 義弘

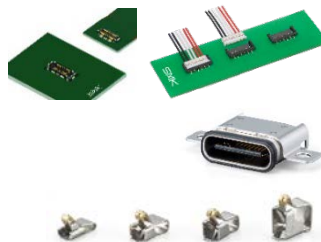
- 商 号 SMK株式会社
- 創 業 1925年（大正14年）4月
- 資本金 7,996 百万円
- 株 式 発行する株式総数 19,596,127 株  
発行済株式総数 7,200,000 株
- 決算期 3月31日
- 売上高 48,051 百万円（連結）
- 社員数 3,985 名（連結）
- 本 社 〒142-8511  
東京都品川区戸越  
6丁目5番5号



## 情報通信



基板対基板コネクタ  
電線対基板コネクタ  
FPCコネクタ  
同軸コネクタ  
インタフェース  
コネクタ  
アースターミナル  
ジャック



## SCI事業部

プッシュスイッチ  
スライドスイッチ  
検出用スイッチ



静電容量方式タッチパネル  
抵抗膜方式タッチパネル  
ミリ波センサー「Milweb®」



## 家電



基板対基板コネクタ  
電線対基板コネクタ  
FPCコネクタ  
インタフェース  
コネクタ  
ジャック



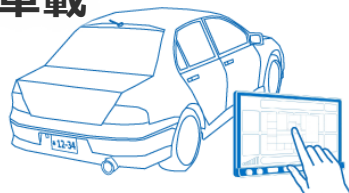
プッシュスイッチ  
スライドスイッチ  
検出用スイッチ  
リモコン



静電容量方式タッチパネル  
抵抗膜方式タッチパネル  
タッチスイッチ



## 車載



基板対基板コネクタ  
電線対基板コネクタ  
FPCコネクタ  
インタフェースコネクタ  
同軸コネクタ



プッシュスイッチ  
マルチタッチ静電パッド  
カメラモジュール



静電容量方式タッチパネル  
抵抗膜方式タッチパネル



## 産機・その他



太陽電池モジュール用コネクタ  
FPCコネクタ  
ドロワーコネクタ  
同軸コネクタ



プッシュスイッチ  
スライドスイッチ  
検出用スイッチ



静電容量方式タッチパネル  
抵抗膜方式タッチパネル



\*MilwebはSMK株式会社の登録商標です。

## 清水 義弘 (しみず よしひろ)

- 1996年 ○ 博士後期課程修了 (工学博士)
- 1996年 ○ SMK株式会社入社  
技術管理部でシミュレーション解析担当
- 1997～99年 ○ 海外含むNotes の展開・普及
- 2000～06年 ○ Notes/Domino担当、DB開発
- 2006～14年 ○ 情報系システムを統括
- 2014～22年 ○ アメリカサンディエゴ出向  
主に人事・総務・IT統括
- 2022年～ ○ システム開発部全体の統括

## 現状の課題

- 情報があるのに活用出来ないという構造的な問題
- 必要な知識にたどり付けない
- 情報探索に必要以上に時間がかかる

## AI時代に 求められる視点

- 「探す」から「引き出す」へ
- 文脈を活かした新しい情報アクセス
- 判断業務に集中出来る環境作り

## Domino × 生成AI の アプローチ

- 蓄積された情報を“使える形”に変える
- 必要な情報へ素早く到達する仕組み
- 組織のナレッジ活用を加速する基盤

## ① 情報が分散している

- Notes DBが増え続け、どこに何があるか把握出来ない
- 部署・システムごとに保存場所が異なる

## ② 業務が属人化

- ベテランの知識が共有されない
- 文書化が追いつかず、知識が共有されない
- 中間採用の増加、社内経験を持つ人が減少

情報があるのに活かされないという構造が形成

## ③ “聞いた方が早い”文化

- 必要な情報にたどり着きにくい
- 結果として「詳しい人を探す」ことになる

## ④ キーワード検索の限界

- キーワード検索ではヒットしない
- 文脈や意図を理解できず、必要な情報にたどり着きにくい

# 生成AIがもたらす“新しい情報活用”の姿

7/16

情報を“探す”から  
“引き出す”へ転換

- キーワードではなく 質問そのもので必要な情報に到達
- 文脈・意図を理解し、関連情報をまとめて提示
- 情報探索にかかっていた時間を大幅に削減

属人化された知識を  
“読み解く”力

- 散らばった知識をまとめ、わかりやすい形で回答
- ベテランが頭の中で行っていた“解釈・判断の補助”を再現
- 組織全体の知識レベルを均質化

文書の種類を  
問わず活用

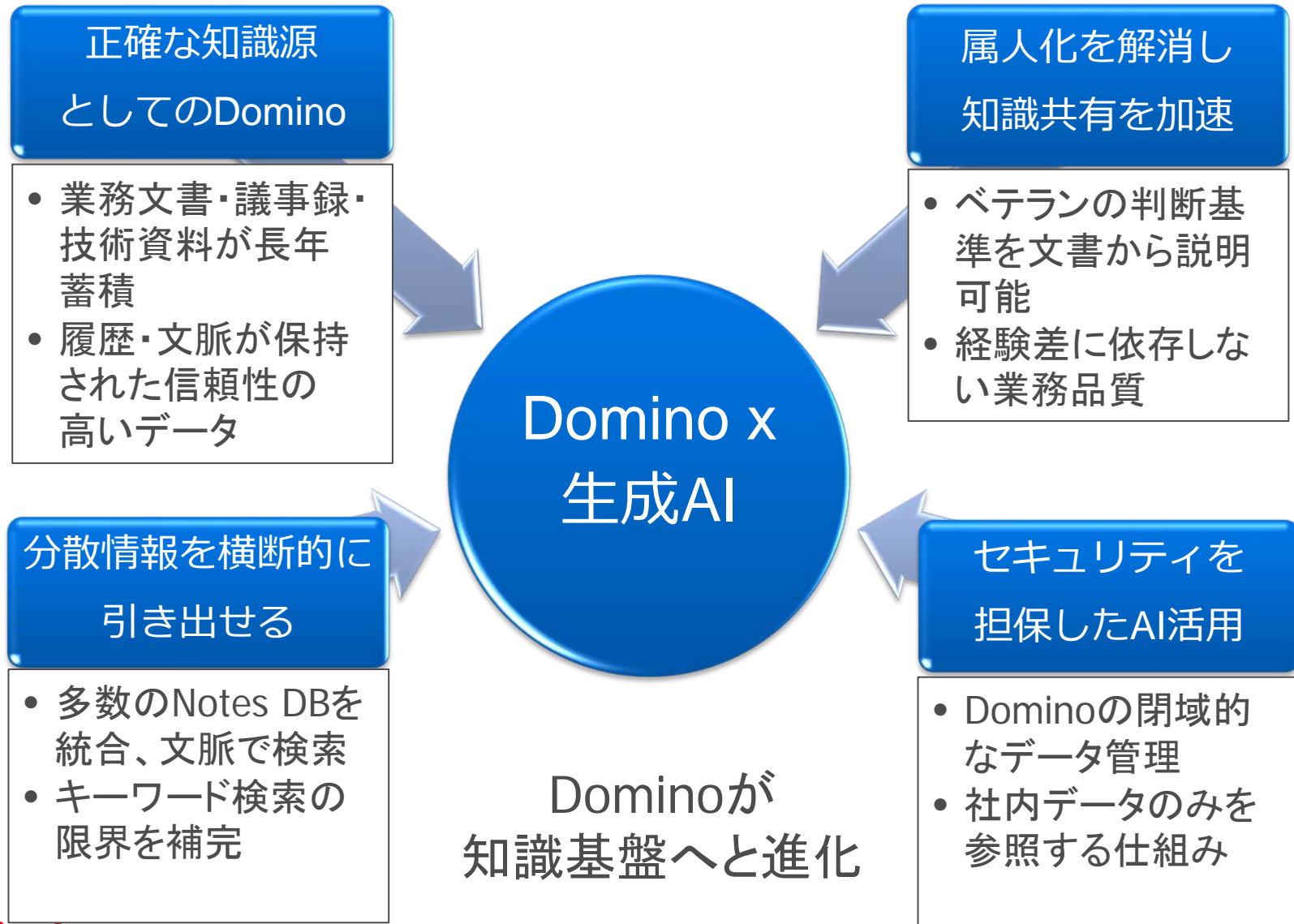
- 議事録、マニュアル、技術情報、報告書など
- 非構造データ でもAIが意味を把握し回答

業務判断のスピードと  
業務品質の向上

- 必要な情報を正確に“要約・比較・説明”
- 過去資料を“読み込む手間”が劇的に減少
- 判断業務が属人化しない仕組みへ

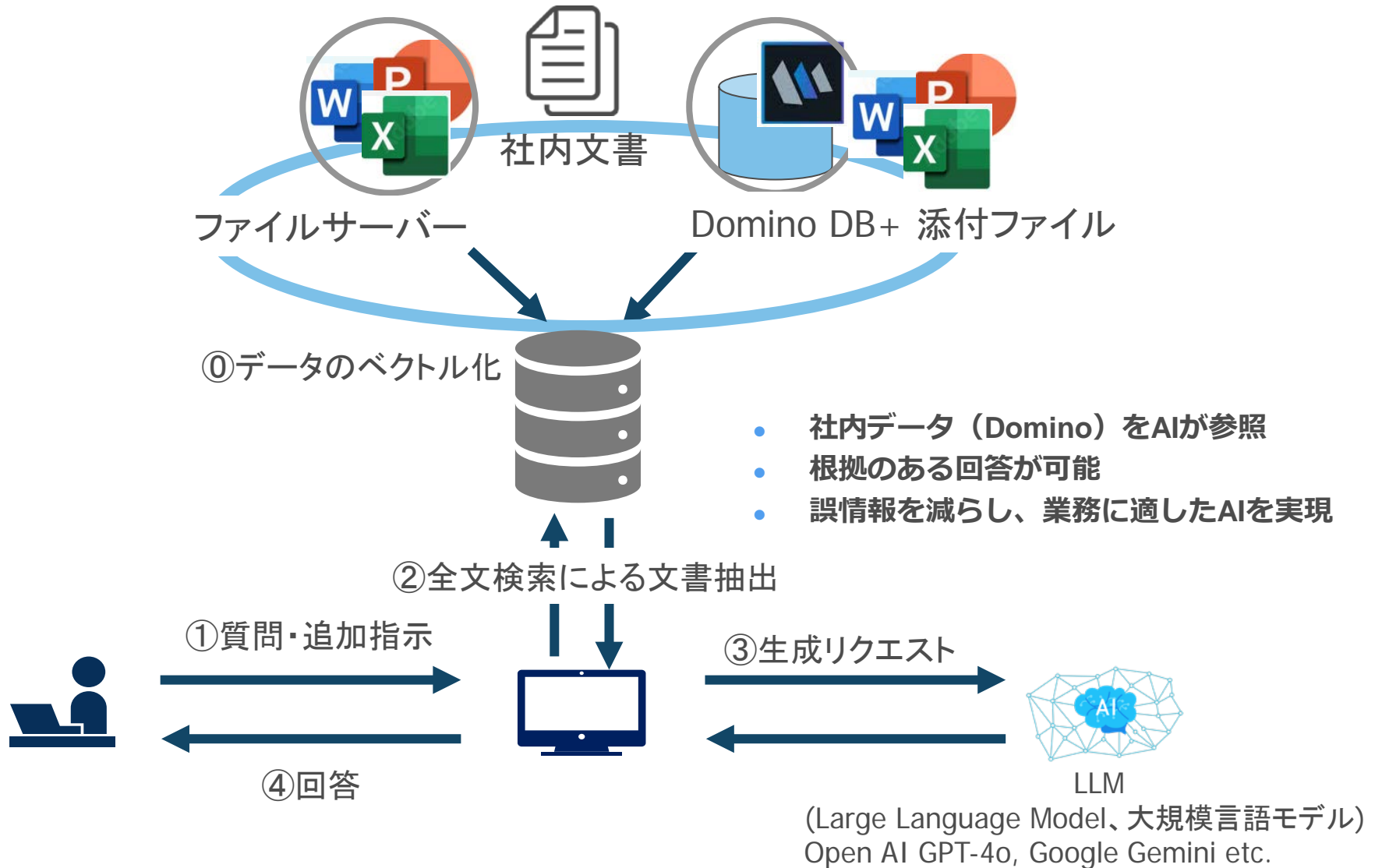
- 誤った回答（ハルシネーション）
  - リスク：誤った内容を自信満々に回答することがある
    - 対策：回答の根拠を社内データに限定する仕組みを使う
- 情報漏えい
  - リスク：社内情報の入力により情報漏洩の可能性がある
    - 対策：オプトアウト設定・企業向けAIを利用
- 判断プロセスの不透明さ
  - リスク：回答の根拠が説明しづらい
    - 対策：出典を必ず返す仕組みを構築





# RAG (Retrieval-Augmented Generation) の考え方

10/16



- RAG, Chatbotの開発
  - 生成AIと会話しながら開発
  - 骨格は2週間程度で
  - Domino IQを使えばより難易度が下がる
- 実例
  - パソコンやソフトに関する質問
  - 人事規定やお知らせに関する質問
  - 過去の製品に関する知見



ITに関する質問

- **業務効率の向上**
  - 情報探索時間を大幅に削減
  - 調査・確認作業の短縮
  - 探索時間は従来の1/3～1/5、対応時間も削減
- **判断品質・スピードの向上**
  - 必要情報を横断的に把握
  - 判断根拠を短時間で確認
- **属人化の緩和**
  - ベテランの知識を誰でも活用可能
  - 教育・引き継ぎの負担軽減

- 古くなった情報をどのように扱うか
  - 既に使われていないルール・手順も混在
  - 情報の鮮度が重要
- マニュアルにあるスクリーンショットを取り込むか
  - 画像は、不要な情報も含むためノイズになる可能性あり
- 足りない情報をどのように追加するか
  - 「この情報が文書化されていない」ことに気づく
  - それをどのように追加するか、仕組みが必要

- 非テキスト情報（画像・図面）への拡張
- 細かなアクセス権への対応
- 海外含む全社展開
- 業務判断支援への進化
- ワークフローや業務プロセスとの統合  
(業務そのものの改革)

情報は“ある”だけでは  
価値にならない

- 企業には膨大な情報が蓄積されている
- 活かされない原因は**分散・属人化・探索コスト高・キーワード検索の限界**

生成AIは情報活用の  
形を変える

- 「探す」から「引き出す」への転換
- 文脈を理解し、横断的に抽出
- 判断のスピードと質を同時に高める

DominoはAI時代の  
知識基盤になり得る

- 長年蓄積された、信頼できる社内情報
- 業務知識が詰まっている

小さく始め、  
業務改革に繋げる

- 完璧を目指さず、使えるところから
- Domino IQの利用も視野に
- 使うことで課題が見え、改善が進む

ご静聴ありがとうございました。